



《将来に向けた取組方針》

共同印刷グループは、2025年5月に長期的に取り組むべき環境活動の方向性を明確にするため「**共同印刷グループ環境ビジョン2050**」を策定しました。事業活動と自然環境との調和を図り、生物多様性の保全活動を推進します。私たちの豊かな暮らしは、生物多様性から得られる恵みである生態系サービスによって支えられています。当グループの主力事業である印刷事業でも、森林資源や水など多くの資源に依存しており、地球環境との共生は企業の持続的な成長になくてはならないものと考えています。原材料の調達から廃棄に至るまでのサプライチェーン全体で、生物多様性の保全や自然環境の保護に配慮するよう取り組んでいきます。

〈具体的な取り組み事例〉

1) 生物多様性リスクの評価

生産拠点における生物多様性への影響について、WWF Biodiversity Risk Filterによる評価を行い、現時点における生産拠点周辺の生物多様性リスクは低いと評価していますが、今後も評価を継続し、生物多様性の保全に努めていきます。

2) 森林資源の持続可能な原材料調達

当グループでは、紙を重要な経営資源と位置づけています。そのため、違法伐採の排除に向けた取り組みとして、2030年までに「原材料木材の合法性が確認された用紙」の調達率を100%にすることを目標に掲げています。調達の際にはサプライヤーに対し、合法伐採木材の使用証明書の提出を求めるなど、管理された森林資源の利用を促進しています。

3) 製品を通じた保全・環境貢献

包材・容器や一般印刷物の提供において、生物多様性保全に配慮した設計と原材料選定を推進しています。省資源化やリサイクル性向上を実現する設計を進めるとともに、FSC[®] 認証紙、合法木材紙、再生材など環境負荷の少ない原材料を採用。これにより、森林破壊や資源採取による生態系への影響を抑制し、廃棄物削減を通じて自然環境や野生生物への負荷低減を実現しています。